

CSR重要課題(マテリアリティ)

雪印メグミルクグループは、ステークホルダーの皆様に向き合い、CSR(企業の社会的責任)により一層取り組むため、2021年にCSR方針を改正し、KPI(重要管理指標)の更新および追加、ならびに対象となるグループ会社の範囲の拡大を図りました。雪印メグミルクグループは、CSR経営を推進し、持続可能性の向上を図るとともに、社会課題解決に貢献します。

雪印メグミルクグループ CSR方針

私たち雪印メグミルクグループは、「雪印メグミルクグループ 企業理念」を実現するために、「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」に基づき、事業活動を通じて、社会とともに持続的に成長していくためのCSR経営を以下のとおり推進します。

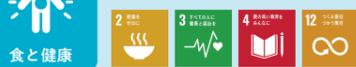
- CSR重要課題(マテリアリティ)を特定し、具体的な目標を設定するとともに、取り組み状況を定期的に開示します。
 CSR重要課題(マテリアリティ)の特定プロセス
- 「CSR委員会」および「全社環境会議」を定期的に開催し、CSR経営に関する取り組み計画の策定、KPIの進捗確認を行い、PDCAサイクルを回すことによりCSR経営の継続的推進を図ります。
- 雪印メグミルクの各部署とグループ各社にCSRリーダーを配置し、コンプライアンス徹底やCSR重要課題(マテリアリティ)の解決に向けて、全従業員が参加する「CSRグループ活動」などの活動を行います。
- 過去に雪印メグミルクグループが起こした事件への反省のもと、コンプライアンス徹底と未来に向けた社会課題解決のため、年2回、「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」として、全従業員が参加する活動を行います。
- 「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」を行動に移すために、グループ各社で「行動基準」を策定し、その浸透に努めます。

詳細 <https://www.meg-snow.com/csr/policy/>

CSR重要課題(マテリアリティ)

詳細 <https://www.meg-snow.com/csr/materiality/>

乳(ミルク)による食と健康への貢献



重点取り組みテーマ 安全で安心していただける商品・サービスの提供

KPI ※1	2022年度	KPI ※2	2022年度
雪印メグミルクブランド製品を製造している国内外の食品施設の75%以上でGFSIに認定された国際的な食品安全スキームの認証を取得	75%以上	風味評価技能を持つ官能評価員認定者数	2017年度比110%以上
2020年度実績	93%認証取得済	2020年度実績	1,522名 官能評価士28名 + 1級976名 + 2級518名 (2017年度比118%)

重点取り組みテーマ 健康寿命延伸への貢献

KPI ※1	毎年	KPI ※2	2026年度
乳(ミルク)を通じて健康寿命延伸に貢献する研究開発、商品開発、サービス提供、情報発信を行う	乳(ミルク)を通じて健康寿命延伸に貢献する研究開発、商品開発、サービス提供、情報発信を行う	食育活動参加者数	45,000名 (年間平均)
2020年度実績	9,715名 (目標比21.5%) コロナ禍により、上期は活動休止となったが、下期はオンラインと対面のハイブリッド活動を実施	2020年度実績	

持続可能な酪農への貢献



重点取り組みテーマ 酪農生産基盤強化への取り組み推進

KPI ※1	毎年	KPI ※1	2030年度
日本酪農青年研究連盟の運営支援および酪農総合研究所の活動により、持続的酪農経営を行うための経営管理・技術的支援を行う	日本酪農青年研究連盟主催の経営力向上Web講習会を延べ4回運営支援 酪農総合研究所シンポジウムをWebによる動画配信で開催	自給飼料型酪農の推進のため、雪印種苗(株)の飼料作物種子の2030年度作付面積を2019年度比で3%増やす	2020年度実績 0.2%減少 (2019年度比)

環境負荷の低減



重点取り組みテーマ 地球温暖化の防止

新KPI ※3	2030年度
CO ₂ 排出量	50%削減 (2013年度比)
2020年度実績	21.1%削減 (2013年度比)

重点取り組みテーマ 持続可能な資源の利用

KPI ※2	2022年度	KPI ※2	2026年度	KPI ※4	2030年度	KPI ※1	毎年
使用する紙を環境に配慮した原材料にする	100%	認証パーム油	100%調達	石油由来のプラスチックの使用量(売上原単位)	25%削減(2018年度比)	紙・バイオマスプラスチックの容器を優先して使用 社内のマイカップ・マイボトルを普及推進	「SDGs実践アワード」の活動として、マイカップ・マイボトル持参に取り組む部署が増加
2020年度実績	83.6% 環境に配慮した原材料使用率	2020年度実績	20%	2020年度実績	1.5%削減 (2018年度比)	2020年度実績	

重点取り組みテーマ 循環型社会の形成

KPI ※5	2030年度	KPI ※5	2030年度	KPI ※6	2021年度	KPI ※1	毎年	新KPI ※7	2030年度	新KPI ※5	毎年
廃棄物排出量	30%削減 (2013年度比)	廃棄物リサイクル率	98%以上を維持	食品廃棄物リサイクル率	95%以上	環境に配慮した商品開発の推進	既存商品・新規商品の賞味期限の延長や、賞味期限の年月表示を積極的に推進	生産拠点の用水使用量	9%削減 (2013年度比)	生産拠点の水リスクを確認し、事業継続のリスク評価を行う	
2020年度実績	23.8%削減 (2013年度比)	2020年度実績	95.4%	2020年度実績	83.6%	2020年度実績		2020年度実績		2020年度実績	

多様な人材が活躍できる職場の実現



重点取り組みテーマ 人材の多様化と人材育成

KPI ※2	2025年度
女性経営職(管理職)比率	10%以上
2020年度実績	5.0% (2021年4月1日時点)

重点取り組みテーマ ワーク・ライフ・バランスの実現と労働生産性の向上

KPI ※2	毎年
健康経営優良法人制度認定の取得	「健康経営優良法人2021」を取得
2020年度実績	

地域社会への貢献



重点取り組みテーマ 地域社会とのパートナーシップ

KPI ※1	毎年
地域と連携し、社会課題解決に貢献	北海道包括連携協定に基づき、雪印パーラー、雪印メグミルクが「いっしょに頑張ろう!北海道応援パフェ企画」を支援し、道産食材の消費拡大やアピールの取組みを実施 雪印メグミルクなかしべつ工場が、子ども食堂に乳製品の無償提供を行い、また乳製品の理解のためのイベントなどを実施
2020年度実績	

※1 KPIは、2021年度からの新しいKPIです。
 ※2 KPI実績:「GFSI認定食品安全スキームの認証取得」「健康寿命延伸への研究開発・サービス提供」「日本酪農青年研究連盟の運営支援」「飼料作物種子の作付面積拡大」「地域と連携し、社会課題解決貢献」は雪印メグミルクグループの2020年度実績、それ以外は雪印メグミルク単体の2020年度実績です。(「生産拠点の用水使用量」「水リスクの確認・評価」は、2021年度より調査および取組みを開始予定)

【KPIの対象会社】(2021年度から一部見直し)
 ※1 雪印メグミルクグループ ※2 雪印メグミルク単体 ※3 雪印メグミルク、いばらく乳業(株)、甲南油脂(株)、直販配送(株)、みちのくミルク(株)、八ヶ岳乳業(株)、雪印種苗(株)、雪印ビーンスターク(株)
 ※4 雪印メグミルク、いばらく乳業(株)、八ヶ岳乳業(株)、雪印ビーンスターク(株) ※5 雪印メグミルク、いばらく乳業(株)、甲南油脂(株)、みちのくミルク(株)、八ヶ岳乳業(株)、雪印種苗(株)、雪印ビーンスターク(株) ※6 雪印メグミルク、いばらく乳業(株)、甲南油脂(株)、みちのくミルク(株)、八ヶ岳乳業(株)、雪印ビーンスターク(株) ※7 2021年度に、対象会社を設定予定



食と健康

CSR 重要課題 (マテリアリティ)

乳(ミルク)による食と健康への貢献

消費者重視経営の実践による安全で安心していただける商品・サービスの提供

食育活動

小中学校への「食育出前授業」や各種「セミナー」「料理講習」の活動を中心に「乳(ミルク)」を通じた健康づくりのサポートをしています。また、コロナ禍における社会的背景の変化と教育の情報化に対応したオンラインによるプログラムを導入し、全国の消費者に健康寿命延伸への取組みを遠隔で効果的に行いました。



食育出前授業(オンライン)

先天性代謝異常症治療用特殊ミルクの開発と供給

特殊ミルクは、生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が十分にできない方のために使用される粉ミルクです。通常のミルクや食事と併せて使用し、症状改善のために食事療法として使用されます。今後も品質の確保と安定供給に努め、患者様が特殊ミルクを用いた食事療法を安心して続けられるよう取り組んでいきます。



製造・供給している特殊ミルク品目

品目	対象疾患		
医薬品 (2品目)	Phe 除去ミルク配合散「雪印」	フェニルケトン尿症	たんぱく質・ アミノ酸 代謝異常
	Leu, Ile, Val 除去ミルク配合散「雪印」	メーブルシロップ尿症	
登録 特殊 ミルク (6品目) [*]	Phe 無添加総合アミノ酸粉末	フェニルケトン尿症	
	Met 除去粉乳	ホモシスチン尿症	
	Phe, Tyr 除去粉乳	高チロシン血症	有機酸 代謝異常
	蛋白除去粉乳	高アンモニア血症	
	Ile, Val, Met, Thr, Gly 除去粉乳	メチルマロン酸血症	
	Lys, Trp 除去粉乳	プロピオン酸血症	
	グルタル酸血症1型		

^{*}「社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健センター 特殊ミルク事務局」の指示により製造・供給

「プラチナミルク for バランス」が「優秀品質最高金賞」受賞

雪印ビーンスターク(株)の大人向け粉ミルク「プラチナミルク for バランス」が、モンドセレクション2021にて「優秀品質最高金賞」を受賞しました。「プラチナミルク for バランス」は、たんぱく質、カルシウムなど8種のミネラル、12種のビタミンなど、多くの栄養素を配合した粉ミルクです。本品は、国際的な品質評価機関であるモンドセレクションのダイエット&健康食品部門において、配合成分とその科学的根拠、安全性、製品内容と表示の適合性の審査項目で最高ランクの評価を得て、「優秀品質最高金賞」を受賞しました。



酪農

CSR 重要課題 (マテリアリティ)

持続可能な酪農への貢献

酪農家に対する経営管理・技術的支援

酪総研シンポジウム

「暑熱」における酪農現場のリスク管理を考える

酪農総合研究所(1976年設立)は酪農に関わる調査研究、酪農サポート活動のほか、「酪総研シンポジウム」を1978年^{*}から毎年継続して開催しています。「酪総研シンポジウム」は、制度、政策から、実際の生産現場での活用技術について酪農に携わる方から提言・知見・情報提供などをいただき、会場参加者との総合討議を通じ、酪農情勢などの共通認識の醸成、知見・技術の現場への活用、普及を図ることで酪農生産現場への貢献を果たしています。2020年度は、都府県のみならず北海道でも毎年のように直面している「暑熱」について、施設・飼養管理・繁殖管理面から生産性を維持する対策などについて講演・総合討議を行い、「暑熱」と上手に付き合っていく方法について検討しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、Web開催としましたが、最終的に218名の方々(視聴する端末数)から参加申し込みをいただきました。これからも「酪総研シンポジウム」を継続して開催し、酪農の持続的発展に寄与していきたいと考えています。^{*}開催当時の名称は「酪農講演会」

講演内容

- 第1講演「暑熱対策(施設)とアシドーシス対策について」
- 第2講演「乳牛への暑熱の影響と飼料給与面での対策」
- 第3講演「暑熱期における繁殖成績改善のヒント」

詳細 <https://www.rakusouken.net/>

自給飼料増産に向けた草地更新技術再整備 - 飼料用麦・牧草同伴栽培技術 -

雪印種苗(株)は北海道と共同で、飼料用麦と牧草を同伴栽培(一緒に播種)する牧草地の更新技術の改良を行いました。本技術は、「北海道農業試験会議成績会議」にて、新たな知見・技術として指導上の参考になると評価され、「北海道指導参考事項」として認定されています。飼料用麦を牧草と同時に栽培すると、春に播種(種まき)された草地の牧草収量を減らさず、雑草の生育を抑制する効果が期待できますが、雑草の抑制や牧草の定着程度がやや不安定なため、広く普及されるまでには至っていませんでした。そこで、「播種時期遅れによる牧草の当年収量減少」や「オペレータ不足問題」「雑草抑制対策」などの課題解決に向けて取り組みました。2020年度は、①使用する草種の混合割合の見直し、②飼料用麦への覆土(播種した後に土をかぶせること)作業工程のルーチン化に取り組み、鳥害リスクなどが低減、雑草抑制効果が向上し、牧草の株数を安定的に確保する効果が得られました。また、③追播(畑を耕さず直接種をまくこと)作業機械の有効活用による飼料用麦の播種作業軽減化や播種ムラの改善、④除草剤処理+同伴栽培の手法で極めて雑草の少ない牧草地をつくることも実証されました。

Voice

私たちのモットー「育て、育てられ、つなぐ一杯」のために

私は、農林水産省を退職して2019年に結婚、2020年に長女を出産し、現在は家事育児を行いながら、安達牧場の事務作業全般を担当しています。酪農というと、長時間・重労働というイメージがありますが、搾乳ロボットなどの省力化機械、酪農ヘルパーや飼料生産調製などの外部支援組織の利用が進み、女性も働きやすい環境が整いつつあります。当牧場では、作業外部化によりゆとりある経営を実践しているほか、雪印メグミルクと情報交換を行いながら、夫婦それぞれの得意分野を活かした作業分担を行っています。互いに補完し、尊重し合える関係が構築できれば、誰もが活躍する場を創出できると思います。「妻だから一歩下がる」ことも時として大事ですが、令和時代の今、酪農家女性は「経営者の一人である」ことを自覚し、酪農に携わる者としての誇りを胸に、業界を更に発展させていくことが求められていると考えています。



酪農家
北海道 標津町
安達 真子さん



CSR 重要課題 (マテリアリティ)

環境負荷の低減

環境に配慮した事業活動による持続可能な社会への貢献

環境方針

雪印メグミルクグループは「雪印メグミルクグループ 環境方針」を、「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」に基づき、「温室効果ガスや廃棄物の抑制」や「生物多様性の保全」などの取組みを追加し、2021年に改正しました。従業員一人ひとりが環境に配慮した事業活動を心がけ、限りある資源を有効に活用し、持続可能な地球環境に貢献していきます。

雪印メグミルクグループ 環境方針

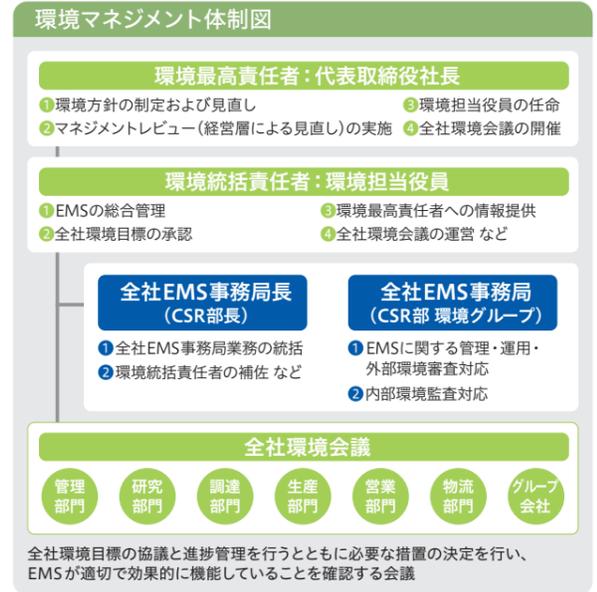
私たち雪印メグミルクグループは、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生を目指します。そのために、「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」に基づき、「雪印メグミルクグループ 環境方針」をここに定め、持続可能な資源の有効利用に努めます。

- 1 法令の遵守**
環境法令・条例および自主基準を遵守し、法改正などに迅速に対応します。
- 2 環境への配慮**
CSR 重要課題 (マテリアリティ) を特定し、KPI を達成することで、限りある資源の有効利用、温室効果ガスや廃棄物の排出抑制、リサイクル・リユースに継続的に取り組みます。
- 3 環境意識の向上**
環境保全に対する自觉を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。
- 4 生物多様性の保全**
事業活動において、資源を持続可能な形で利用することで、生物の多様性を保全し、未来の社会作りに貢献します。
- 5 環境情報の開示**
環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

環境マネジメント体制

雪印メグミルクの環境マネジメントは、環境保全活動の最高責任者である社長をトップに、環境担当役員を環境統括責任者とする環境マネジメントシステムにより、総合管理をしています。また、各部門には環境管理責任者を置くことで、全員参加型の環境マネジメントに取り組み、ISO14001:2015※に準拠した環境マネジメントシステムを推進しています。

※ 組織内で環境保全に取り組むための体制づくりに関する国際規格



ISO14001認証取得

事業活動が及ぼす環境への負荷を少なくするために、環境保全に積極的に取り組み、その成果を客観的に示すため、ISO14001を認証取得しています。現在は、雪印メグミルク、みちのくミルク(株)、いばらく乳業(株)、八ヶ岳乳業(株)の4社で認証を取得しています。



審査風景(トップインタビュー)



審査風景(本社)



審査風景(首都圏西支店)



環境監査体制

環境監査には審査機関による外部審査と社内で実施する内部監査があり、EMSの運用状況や法令遵守の状況を総合的に確認しています。雪印メグミルクの内部環境監査は、生産部が行う第一者監査と、CSR部が行う第三者監査の2種類を組み合わせて実施しています。第一者監査では業務をよく知る監査員による業務改善効果が、第三者監査では客観的な立場からの法令チェックや課題抽出に大きな効果が出ています。



内部環境監査(札幌工場)

環境教育

全社EMS事務局が主催するe-ラーニングや、内部環境監査員養成研修、部署独自に実施する個別研修など、各種の環境教育制度があり、環境意識の向上を図っています。階層別e-ラーニングのうち、一般教育コースでは雪印メグミルクの全役員・従業員(約4,100名)に受講を義務付け、毎年受講率100%を達成しています。また、以前実施していた集合研修は、コロナ禍の影響もあり、Webによる研修に切り替えて実施しています。



環境研修(本社)

持続可能な社会の実現に向けた調達活動

「雪印メグミルクグループ 調達方針」に基づき、公正な取引、人権・環境などの社会的責任と持続可能性に配慮したうえで原材料などの調達活動を推進していきます。また、お取引先様の取組み内容についても定期的に調査を実施しています。

雪印メグミルクグループ 調達方針

雪印メグミルクグループは、グループ企業理念のもと、「雪印メグミルクグループ CSR方針」にのっとり、主体的に、企業としての社会的責任に配慮した調達活動をお取引先さまと共に推進し、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

- 1. 法令の遵守、社会規範の尊重**
 - 関係各国の法令を遵守し、社会規範を尊重して調達活動を行います。
 - 基本的な人権の尊重、労働環境の改善等の社会的責任にも配慮して調達活動を行います。
- 2. 品質・安全性の確保**
 - 高品質で安全な商品を提供するための調達活動を行います。
 - 安定的かつ適正な価格で商品を提供できるように調達活動を行います。
- 3. 公正・公平な取引の実践**
 - お取引先さまとは公正・公平な取引を行います。
 - 調達取引に関わる機密情報および個人情報、適正に管理します。
- 4. 地球環境への配慮**
 - 私たちの基盤である「酪農」は、豊かな自然環境があって初めて成り立ちます。持続可能な社会の実現に貢献すべく、生物多様性を重視し、地球環境に配慮した調達活動を推進します。

● CSR調達に関する取引先調査の実施

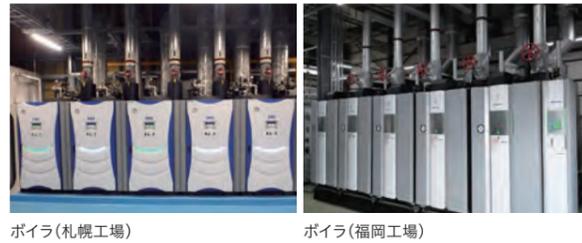
社会の持続可能性を高めるCSR調達の促進に向けてサプライヤーの皆様とともに取組みを進めるため、「雪印メグミルクグループ 調達方針」に基づき、10月、CSR調達に関する調査を実施しました。調査にはグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが作成した「CSR調達 セルフ・アセスメント質問表(SAQ)」を使用し、環境・人権など9カテゴリ、114問について調査対象である全245社から回答をいただきました。集計結果は、全社平均との比較とともに各社にフィードバックしました。

▶▶▶ 重点取り組みテーマの主な取り組み

地球温暖化の防止

超高効率ボイラの導入

雪印メグミルクでは、環境負荷の低減のため、燃料削減に向けた省エネにも取り組んでいます。今回、札幌工場と福岡工場にて、排ガス中に含まれる水蒸気を凝縮させることで熱回収する「超高効率ボイラ」を採用しました。この取り組みにより、ボイラの給水の加熱に必要な燃料を削減でき、従来比で約3%の都市ガス使用量の削減効果が期待できます。



冷却設備更新による省エネ

みちのくミルク(株)では、生産工程に係る省エネ機器の選定とその運用方法の変更などにより、エネルギーの使用量削減を図っています。冷却設備では、夜間に冷凍機を稼動して蓄熱槽へ氷を蓄えておき、日中、その氷を製品の冷却・保冷に使用する冷却設備「アイスバンク」を採用しています。アイスバンクを高能力に更新したことにより、夜間に氷を蓄える能力が向上し、日中における冷凍機の稼動停止での運用が可能となりました。更に、冷凍機も省エネタイプのものに更新したことにより、電力使用量を従来比で約25%削減する効果が期待できます。



工場照明のLED化による電力使用量の削減

雪印メグミルクでは、工場照明のLED化を積極的に進めています。阿見工場では、約7割の構内照明をLEDに交換しており、2020年度は451台の照明器具をLEDに交換しました。幌延工場では、557台の照明器具をLEDに交換し、全LED化が完了しました。阿見工場全体で電力使用量を従来比で約2%、幌延工場全体で従来比で約1%削減する効果が期待できます。



空調設備改善による省エネ

雪印メグミルクでは、野田工場の殺菌室に設置している空調設備の給気・排気ファンに、インバータ※を取り付けました。これまでは100%の出力でモーターを回転させて運転していましたが、季節変動(外気温など)や生産状況に応じた最適な運転出力を設定できるようになったことで、電力使用量を約29%削減する効果が期待できます。



※ モーターの回転速度を変えて駆動するための装置

循環型社会の形成

廃棄物(汚泥)発生量の削減

雪印メグミルクでは、工場が一番多く発生する廃棄物が排水処理から排出される汚泥です。磯分内工場では排水処理設備を更新し、油分の分解に優れたトルラ酵母を用いた標準活性汚泥法を採用し、前処理でより多くの有機物を分解することで余剰汚泥の発生を抑え、汚泥の減容化を図っています。2020年度の汚泥発生量は2019年度と比べ約70%削減することができました。また、野田工場でも、標準活性汚泥を長時間の高DO(溶存酸素量)状態にすることで汚泥の自己消化により減容させる汚泥減容化設備を導入しました。これにより約30%の汚泥削減が期待できます。



持続可能な資源の利用

プラスチック使用量の削減

雪印メグミルクでは、プラスチック使用量削減による環境負荷低減を目指し、商品の容器包装に使用されているプラスチックの軽量化などに取り組んでいます。2020年度は「食感工房」シリーズの外包装を10%軽量化しました。



ペットボトルの作業服へのリサイクル

雪印メグミルクの全16工場といばらく乳業(株)で使われる作業服の生地に1着当たり約18~29本の使用済みペットボトルを使用しています。年間では約57,000本のペットボトルが使用されています。生地を作るうえで、新しい資源の利用が削減されるとともに、使用済み資源の有効利用につながるなど、環境負荷の低減に貢献しています。



紙パックの回収・リサイクル

雪印メグミルクは、全国牛乳容器環境協議会の会員企業です。当協議会と連携し、従業員に対して牛乳の紙パックリサイクルや資源循環に関する研修や体験実習を行うことで、資源循環への理解を深め、紙パックの回収、リサイクルへの行動につなげています。雪印メグミルクは、資源循環を推進し、持続可能な社会づくりに貢献しています。



森林認証紙の使用

使用する紙については可能な限り、持続可能性に配慮した森林認証紙への切替えを順次進めています。責任ある森林管理がなされた森林および、そこから生まれた林産物に対する国際的な森林認証制度であるFSC™またはPEFCの森林認証紙を、「雪印メグミルク牛乳」などの商品容器に採用しています。商品に関わる紙容器や外装ダンボールだけでなく、印刷用紙・印刷物・店頭販促資材についても同様に取り組んでいます。



※ SGEC/PEFC ジャパンの許可を得て掲載しています。



CSR 重要課題 (マテリアリティ)

多様な人材が活躍できる職場の実現

個性を認め、尊重し合い、多様な働き方をサポート

働き方改革／ワーク・ライフ・バランスの実現

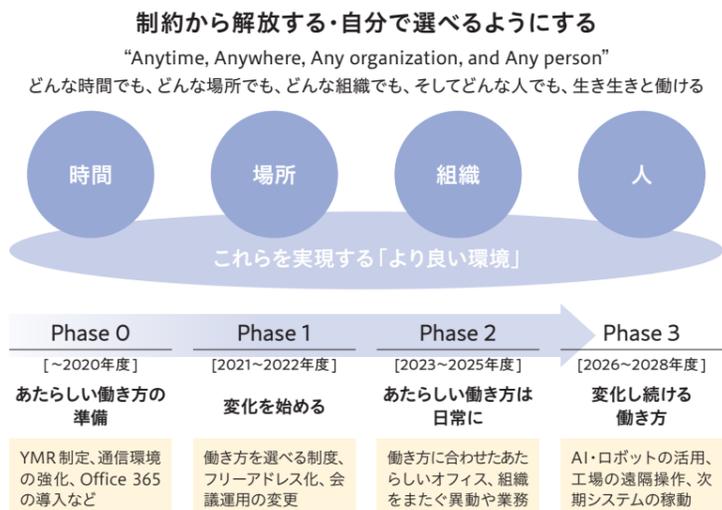
2016年度から取り組んできた働き方改革は、2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大下でも大きな役割を果たしました。特に、Web会議の推進やITツール導入による業務の効率化、2018年度に導入した在宅勤務制度などは、突然の在宅勤務増加による混乱の回避や従業員の安全確保に貢献しました。コロナ禍による働き方の変化を受け、2020年6月には、今後の働き方を検討する「あたらしい働き方プロジェクト」を始動し、リモートワーク社会の到来に備えるためのルールづくり(YMR)や、企業価値の向上と従業員満足度の向上を両立する働き方の取組みを開始しています。なお、従来から取り組んできた時間外労働時間の削減(一般職、2015年度上期比27.7%削減)や従業員の有給休暇取得率の向上(全従業員、取得率73.8%、2015年度比122%)も着実に進んでいます。

「雪印メグミルク リモートワーク マネジメント(YMR)」の導入

- 一定のリモートワーク実施者がいても、業務を止めない・生産性を落とさないためのルールの策定とその運用の開始(2020年10月より)
- 社会環境の変化や新たな課題を認識し、ルールのアップデートなどを行うための定期的なモニタリングの実施

「あたらしい働き方」の取組み

- 企業価値の向上と従業員満足度の向上を一緒に実現する
- 多様なあふれる働き方の実現に向け、従業員が自分で選べる働き方を指す



人材育成

雪印メグミルクグループは、「最大の経営資源は人材である」との考えのもと、スキル開発に軸足を置いたプログラムや、自らの仕事を主体的に捉え、チャレンジしていく社員の育成を目的としたキャリア開発支援など、グループ全体での人材育成に取り組んでいます。

● スキル開発

階層別の各役割要件に合ったスキル・マインド・思考などの強化と、公募型によるアカウンティング、ロジカルシンキングなどの専門知識・スキルを強化する研修を新型コロナウイルス感染予防の観点から、オンラインで実施しました。



公募型ビジネススキル研修「アカウンティング」

● キャリア開発

人事部の有資格者によるキャリアカウンセリング、および上司によるキャリア面談を実施しました。これまでのキャリアを振り返り、今後のキャリアの方向付けを行うことを目的として、「ワークショップ キャリアドック38」を開催し、また、新任経営職を対象とした「WS キャリア支援」では、経営職自らがキャリアを振り返り、キャリア・デザインを行い、その後、部下が主体的に自らのキャリアをデザインし、自律的に成長していくよう支援するスキルの強化を図りました。

ダイバーシティ&インクルージョン

● アンケート活用による人材の多様性の風土改革

人材の多様性確保と働き方に関する従業員意識調査を3年に1回実施しています。前回の2019年の調査結果を受け、「学習意欲を持った社員への研修機会の提供」「介護、LGBTに関する人材の多様性の確保」「自律的なキャリア開発のサポート」に取り組んでいます。

● 育児休業者の仕事と家庭の両立支援

出産・育児と仕事の両立を支援するため、男女の育児休業者に対して、休職中の職場との連絡体制や自己啓発、復職前面談などのプログラムを提供しています。2021年2月に「育休後みらいカフェ」をオンラインで開催し、育児休業を取得後、現在未就学児を育てながら仕事をしている女性社員が仕事と子育ての両立に関する悩みや、子育てに関する経験、アイデアを共有しました。また、休職者の上司・所属長は、子育て中の社員の働き方や支援方法を理解するe-ラーニングを受講しています。2020年度の男性社員の育児休業取得率は、2017年度と比較して倍増となりました。

● 女性のリーダーシップ強化

キャリアアップに向けて、主体的に行動することへの意識付けや、組織成果を高めるための影響力の強化を目的に、「キャリアアップ・チャレンジ研修」として外部研修にオンラインで参加しました。社内では気づくことができない新たな価値観への気づきを促し、キャリアステップに必要な意識・スキル・思考力の強化を図ることができ、また、社外ネットワークの構築にもつながりました。

● 無意識の思い込みへの理解、職場づくりのe-ラーニングの実施

無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)に対する基本的な知識を身に付け、職場内のストレスを減らし、より成果を上げる働き方ができるよう、配慮や言動について2019年度までの全経営職・職制に加え、新たに経営職・職制になった74名が受講しました。

SDGs 実践 アワード



提案したマタニティ作業服

マタニティ作業服の提案(野田工場)

SDGs実践アワード P.66

野田工場の人材の多様性を推進する「未来創造部会」では、マタニティ作業服を提案しました。妊婦のお腹が大きくなるのに合わせて、作業服のサイズアップをしています。普段Mサイズの方が、3Lサイズに変更することがあり、お腹周り以外は元のサイズのままなので、衣服のたるみ部分が製造機械への巻き込まれの危険性があり、また、動きづらいなど作業性が悪化していたため、マタニティ専用の作業服を提案することにしました。本社生産技術部と何回か試作品をオーダーし、全国の工場に展開できるように取り組んでいます。

健康経営

●「健康経営優良法人2021」認定

2021年3月、雪印メグミルクは、地域の健康課題に即した取組みや日本健康会議が進める健康増進の取組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している企業を顕彰する「健康経営優良法人2021」の認定を取得しました。

●雪印メグミルク健康宣言

詳細 <https://www.meg-snow.com/corporate/health-declaration/>

雪印メグミルクは、従業員の皆様に、「心身ともに健やかに、元気で生き活きと働いてほしい、また、在职期間中だけではなく、その後の人生においても、介護や医療を必要としない期間が少しでも長く、元気に充実した生活を送っていただきたい」と願っています。そのため、当社は健康維持・増進の取組みを推進し、従業員の「健康」に向けた支援をしていきます。しかし、「健康を維持していく」ことは「良い生活習慣の積み重ね」によるものであり、会社による支援だけではなく、従業員の皆様一人ひとりが健康意識を高め、維持・改善へ向けた行動が伴わなければ、実現できません。特に、生活習慣による負担は経年的に身体に影響を及ぼします。今は元気な人も、今は身体に支障が無い人も、『今の「健康」は、この先も保証されているものではない』ということを認識し、将来の健康のため、一人ひとりが主体となって、今できることを一つひとつ行動に移していただきたい、と切に願っています。雪印メグミルクは、従業員一人ひとりの「健康」を礎として、企業理念の3つの使命「消費者重視経営の実践」「酪農生産への貢献」「乳(ミルク)にこだわる」を果たすとともに、社会に貢献できる企業であり続けます。

雪印メグミルクは、食の楽しさや健康をお届けし、食の未来を創造する企業として、従業員が心身ともに健康であることを尊び、健康の維持・増進に向け、自ら行動していくことができるよう、以下の取組みを推進し、支援していくことを宣言します。

(1)生活習慣病の未然予防を目的に、セルフケア知識の提供や、健康相談・保健指導を実施し、健康増進に向けた取組みを推進致します。(2)従業員全員を対象に、ストレスチェックを実施し、メンタルヘルスに関するケアおよび予防支援の取組みを推進致します。(3)従業員の健康確保に向けた働き方の取組みを推進致します。

●「いばらき健康経営推進事業所」認定

茨城県に所在する阿見工場といばらき乳業(株)は、従業員の健康に配慮した取組みや企業経営を実施している企業として、茨城県から「いばらき健康経営推進事業所」の認定を受けました。いばらき乳業では、歩数計測ができる茨城県公式アプリを活用し、従業員によるウォーキング促進を、2020年11月から始めています。参加者は月間平均10万歩歩き、健康増進に向けて活動しています。

●ウォーキングラリー

三和流通産業(株)では、12月からの3カ月間、歩数を競うウォーキングラリーを開催し、従業員のほぼ全員265名が、健康増進に取り組みました。期間内にカウントした歩数の合計により、個人や職場単位で表彰しました。この開催をきっかけに「休日も含めて歩くようになった」「職場内のチームワーク強化につながった」との声が従業員から上がっています。この取組みは2021年度、「埼玉県健康経営認定制度」に申請します。

●骨密度測定

雪印メグミルク独自の「MBP®」を使用した、骨密度を高める機能性表示食品「MBPドリンク」を2021年3月に発売。これを機に、今一度「骨の健康」を従業員自らが見つけ直す機会として、健康診断での骨密度測定を実施しました。



骨密度測定

SDGs
実践
アワード



フィットネス企画

フィットネス企画による運動不足解消(野田工場) SDGs実践アワード P.66

野田工場では、東京理科大学 教養教育研究院(野田体育研究室)が監修した健康増進動画を活用してフィットネス企画を行い、従業員の運動不足解消を図りました。新型コロナウイルス感染防止に配慮し、人数制限を行ったうえで34回開催し、工場内の協力会社5社を含め173名が参加しました。

開催回数 **34**回 参加人数 **173**名

人権

近年、企業活動のグローバル化が進み、企業にはサプライチェーンにおける人権尊重の具体的な行動が求められています。雪印メグミルクグループは、事業活動を通じて社会とともに持続的に成長し、社会課題の解決に貢献していくために、ステークホルダーの人権を尊重していくことが極めて重要だと考えています。雪印メグミルクグループとして、サプライチェーンにおける人権課題において具体的な行動に取り組むため、2020年6月「国連グローバル・コンパクト」への署名に続き、2021年6月国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に準拠した「雪印メグミルクグループ 人権方針」を制定しました。

雪印メグミルクグループ 人権方針

私たち雪印メグミルクグループは、事業活動を進めていく上で、直接または間接的に影響を与える、あらゆる人々の人権を尊重しなければならないことを深く認識しています。その責任を果たすため、「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」に基づき、「雪印メグミルクグループ 人権方針」をここに定め、これを指針として取り組んでいきます。

1. 人権尊重の考え方

私たちは、「国際人権章典」(世界人権宣言と国際人権規約)、および「労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関(ILO)宣言」に規定されている人権を尊重するとともに、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」を踏まえ、実践に向け取り組みます。雪印メグミルクグループは、「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。

私たちは、人種、国籍、性別、宗教、思想などの違いによる差別の禁止や、強制労働、人身売買、児童労働等の不当な扱いの禁止、ハラスメントのない安全かつ健康的な労働環境の提供等、人権尊重の取組みを進めます。

私たちは、事業活動を行うそれぞれの国や地域において、現地の法令を遵守します。万が一、現地の法令と国際的に認められた人権が異なる場合は、国際的に認められた人権の原則を最大限尊重するための方法を追求します。

2. 適用の範囲

私たちは、本方針を雪印メグミルクグループの全ての役員と従業員に適用します。また、雪印メグミルクグループの製品・サービスに関連する全てのビジネスパートナーの皆様にも、本方針の遵守を求めます。

3. 人権尊重の責任

私たちは、自らの事業活動およびサプライチェーンへの関与を通じて、人権に対する負の影響を与えていることが判明した場合、是正に向けて対応し、人権尊重の責任を果たしていきます。

4. 人権デュー・ディリジェンス

私たちは、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、人権デュー・ディリジェンスを実施していくことで、私たちの事業活動による人権への負の影響を特定し、その防止および軽減を図るよう努めます。

5. 対話・協議

私たちは、事業活動による実際または潜在的な人権への負の影響について、外部の専門知識を活用するとともに、関連するステークホルダーと対話・協議を行います。

6. 教育・研修

私たちは、全ての役員と従業員に対し、本方針が適切に理解され実践されるよう教育を行い、私たちの取引先に対しても必要な事項を周知します。

7. 救済

私たちは、事業活動により人権に対する負の影響を与えた、またはこれに関わったことが明らかになった場合には、適切な手続きを通じてその救済に取り組みます。

8. 責任者

私たちは、本方針の実行に責任を持つ担当役員を明確にし、実施状況を監督します。

9. 情報開示

私たちは、本方針に基づく人権尊重の取組み状況について、雪印メグミルクのウェブサイトや統合報告書などで開示していきます。

●人権尊重の取組み

「雪印メグミルクグループ 人権方針」に定めている人権尊重の取組みを進めていくにあたり、事業活動に伴う人権侵害リスクを把握し予防や軽減策を講じる「人権デュー・ディリジェンス」を行っていきます。人権問題における世界的な潮流に合わせ、正当性の担保を得た取組みを行うために、人権問題の専門家である「経済人コー円卓会議日本委員会」からの助言を得ながら進めています。第1ステップとして、「人権リスクアセスメント」に向けたヒアリングを受けました。

●CSR情報かわら版

CSRに関する情報を従業員と共有し、CSRに対する意識を高め、取組みを拡大していくことを目的とした情報誌です。CSR部で制作して毎月発行し、雪印メグミルクグループのCSRリーダーを通じて、全従業員約5,300名に発信しています。人権問題、ハラスメント防止に関する解説やケーススタディを掲載し、従業員の人権尊重に対する意識の啓発につなげています。



CSR情報かわら版



CSR 重要課題 (マテリアリティ)

地域社会への貢献

事業活動を通じた地域社会との交流・連携・調和

地域との連携

● 北海道包括連携協定

雪印メグミルクグループは、北海道と包括連携協定を2007年に締結し[※]、乳製品製造などで培った技術を活かして、「酪農」や「食」の分野で北海道経済の活性化に取り組んでいます。 ※2007年当時は、雪印乳業(株)、雪印種苗(株)、(株)雪印パーラーと北海道との協定

具体的な取組み

1. 「酪農」の振興に関する事項

- チーズ製造技術の普及支援 など

2. 「食」の安全・安心、産消協働[※]に関する事項

- 道産食品の安全・安心に向けた取組みの支援 など

3. 子育てや健康づくりに関する事項

- 子育てに関する地域活動の支援
- 食育や健康づくりに関する支援
- スポーツの振興に関する支援 など

4. 北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項

- 「花観光」に関する支援 ● 世界自然遺産
- 北海道遺産に関する普及啓発
- 雪印メグミルク「酪農と乳の歴史館」における北海道観光PR など

5. その他必要と認める事項

- 環境に対する取組み
- 防災活動への支援
- 北海道の広報活動への協力 など

※地域の消費者と生産者が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環(人・もの・お金の流れ)を高めて地域経済の活性化を図る運動

● さっぽろまちづくりパートナー協定

雪印メグミルクは、札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しています。「酪農と乳の歴史館」の見学者数に応じ「さぽーとほっと基金」に寄付を行い、子供の健全な育成を支援する活動を応援しています。

● 宮城県との連携

雪印メグミルクは、「スマートみやぎ健民会議」の応援企業として、宮城県と「野菜摂取の促進」「減塩」「脱メタボ」を中心に地域課題解決に取り組んでいます。2020年度は、宮城県庁食堂で「乳製品とっしょに野菜がとれるメニュー」「恵 megumi ガセリ菌 SP 株ヨーグルト ドリンクタイプ」(100g)をランチメニューとして提供しました。また、宮城県の特産であるせりとチーズを使ったメニューを考案し、宮城県と雪印メグミルクWebサイトで発信するとともに、地元企業とたんぱく質・カルシウムを含むレシピを共同開発し、店頭で発信しました。



カレー仕立てのせり鍋風スープ

● 茨城県との「健康寿命延伸」の取組み

雪印メグミルクと茨城県の営業戦略部は、日本人の野菜不足、カルシウム不足の課題に対して協力し、茨城県産野菜と乳製品の消費拡大につながる、1日の1/2分の野菜(175g)と、不足しているカルシウム(223mg)が1品で摂れるレシピを、年間6回開発しています。7月には、「担々風ミルクつけ麺」を発信しました。レシピは2カ月に1回発信して、茨城県庁の食堂のランチメニューとして提供し、スーパーの店頭で当該レシピを掲載したPOPの展開にも力を入れています。



担々風ミルクつけ麺

フードバンク活動の支援

雪印メグミルクグループでは、生活困窮者の食を支援するフードバンクのセカンドハーベスト・ジャパンに、大人のための粉ミルク「プラチナミルク for バランス」「LL 北海道牛乳」(1000ml)、「業務用ミックスチーズ 1kg」など、7種(約48,000個・約35t)を提供しました。特に、調理の必要がない栄養豊富な牛乳は大変喜ばれました。また、雪印メグミルク九州統括支店では、福岡エリアにおいて、地域のフードバンク団体を通じて福祉施設、子ども食堂などに食品提供を行う団体である「福岡県フードバンク協議会」に、2020年11月から商品提供を開始し、「雪印北海道100 チーズフォンデュ」(185g)、「LL 北海道牛乳」(1000ml)、「ナチュレ 恵 megumi」(400g)など、15種(約23,000個・約10t)を提供しました。当団体では、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域のフードバンク団体を通じて行政支援受給者、アルバイト先を失った大学生、自国へ帰れない外国人留学生などの支援を行っており、「日々使う乳製品の提供は非常に嬉しい」と感謝の言葉をいただきました。



「LL 北海道牛乳」(1000ml)の搬出の様子

環境イベント

● 京都工場で開催された「SDGs 体験型環境学習」

2020年11月、京都府南丹保健所が主催する「SDGs 体験型環境学習」が雪印メグミルク京都工場で開催され、未来のSDGsパーソンを目指す、亀岡市、南丹市および京丹波町の小学4～6年生8名が来場しました。京都工場生産しているヨーグルトや牛乳などの製造方法の説明後、工場における水の使用量とその削減の取組み、排水処理による浄化、紙パックのリサイクルなど、環境負荷の低減について勉強しました。



工場長による工場概要の説明

● 紙パックリサイクルの推進

2020年11月、(株)雪印こどもの国牧場にて「牧場まつり」が開催されました。当日は感染対策を実施したうえで、紙パックリサイクルに関するクイズに回答してもらうスタンプラリーや、紙パック工作「フライングディスク」を通して、お客様に紙パックリサイクルの大切さや環境保全の取組みの重要性についてお伝えしました。



牧場まつりの様子



紙パック工作「フライングディスク」

SDGs 実践 アワード



子ども食堂への協賛(なかしべつ工場)

SDGs 実践アワード P.66

工場近くの町内会館で開催された子ども食堂に協賛しました。2020年10月は手洗い講習と「さけるチーズ」を使ったゲーム大会、2021年3月は、牛乳からチーズをつくるアニメ映像視聴やカッテージチーズをつくり、衛生面や食の大切さを楽しみながら学びました。